

# 東京

# 花見でぎる水辺再生へ

## 品川区の目黒川

### 今春から水質浄化実験

品川区は、白濁化が見られる区内を流れる目黒川に高濃度の酸素を溶かした水を投入して水質浄化できないか、今春から実験を始める。立会川での同様な実験で効果が確認されたのを受け、実施する。目黒川では例年春、見事な桜が花を咲かせており、花見が楽しめる水辺の再生を目指す。(松村裕子)

立会川は、一九九六年汚れた水を浄化しようとの水質調査では都内の中小河川でワーストワンだった。二〇〇二年七月からJR総武線のトンネル内にわく地下水を流し、上層だけはきれいになった。さらに、下層の

魚の生息には一辺あたり五割以上が望ましいとされる溶存酸素が中層で、実験前のゼロから四・七二割に増加。微生物の活動が活発化して、臭気も減った。ボラをはじめとする魚や鴈の姿も見られるようになった。新年度からは高濃度酸素の注入口を増設し、さらに

化水素が原因という。実験では、一時間に二百リットルの高濃度酸素溶解水を排出できる装置を設置。来年三月まで続けて、効果をみる。

約七百三十リットルと短い立会川に比べ、目黒川は区内の延長二千七百リットルで、区内を東西に横切る。東五反田ではまちおこしとして、親水公園を整備し花見船を運航する構想があり、東京湾から内陸へ風が抜けヒートアイランド対策としても期待される。こういった活用のためにも、河川浄化の必要に迫られている。